

中田かわら版 3月号

～中田地区の地域活動をお知らせします～

発行：中田連合地区経営委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所

制作：中田かわら版制作編集委員会

横浜市踊場地域ケアプラザ

■この人に会いたい<42>

木製玩具作りのおじさん

森口 重瑠さん (78 歳) 下村



森口さんと言えば今、中田の子どもたちの間で引っ張りだこになっている木製おもちゃの製作者である。早速、頑丈でエコな玩具の製作作業場を見せてもらった。車が 2 台は悠に入る木造ながら頑堅なガレージだ。天井も高い。

本物のクラシックカーが 2 台在り、その 1 台を外に出してある。空いたスペースが木工作業所となっていて、種々な機械や工具がセットされている。壁際には建築現場で貰ってきた木っ端や板が整列して出番を待っているようだ。

昭和 14 年 11 月、新潟県中頸城郡吉川町（現上越市）に生まれた。あの「三階節」で有名な「米山さん」を背に、冬には猛々しくも雄雄しい日本海を望むこの地に 18 歳まで過ごす。多少やんちゃなシゲルさんは子どもの頃、よくモクズガニ捕りをしたらしい。

18 歳で上京し、東京の食品会社を勤め上げ娘さん 2 人、息子さん 1 人もすでに独立して、今はご夫妻だけで下村町内に暮らしている。

木製玩具を作るきっかけは民生委員になってからだ。文化祭などのイベント展示品としてミニカーを作った。また伊勢山小学校の友遊クラブに所属して、リースや組み立て式のおもちゃを作った。民生委員を 2 期（6 年）務めたのち、縁あって中田地区社会福祉協議会のメンバーに加わる。

毎月第 4 木曜日午前に、くずの小コミュニティ・ハウスでは「子育てサロン」を開催している。木製ミニカーや機関車が 120 cm ほどのスロープを軽快に走る。10 台以上あるので子どもたちどうしの取り合いはない。また、中田第 5 公園では毎月第 4 金曜日の午前に「親子公園そと遊び」が開催される。外なのでスロープは 180 cm を越す。更に子どもたちが興奮するほど大人気なのは全長 50 cm 以上の乗れる木製カーだ。森口さんは 4 台目を完成させた。ママやボランティアさんが公園内をゆっくり引いてくれる。満面の笑みは絶好の「シャッターチャンス」となる。

取材時の 12 月、森口さんは度々変身する。子どもたちや高齢者の集いにプレゼントを入れた袋を担ぎ「メリークリスマス！」と叫ぶ。自前の髭が役に立つ。

森口サンタさんは晩には日本酒 1 合をゆっくりと味わう。ふるさと新潟の「越乃雪中地蔵」がお気に入りだ。昭和 38

年から横浜に住みながらも、故郷を忘れることはない。あした何をつくろうか。こんな形のミニカーは気に入るだろうか。モクズガニ捕りの少年の心がよみがえる。

この子たちに「木」の温もりを感じてほしい。もしかして将来の地球環境を救ってくれるかもしれない……なんて、飛躍し過ぎだろうか。

（編集委員 松本 正）



森口さんが手がけた玩具類

～一人ひとりが CO₂ を減らす努力をし、美しい地球を子どもたちに残そう！～

4月のイベント

このチラシの情報をより詳しく知りたい方は、踊場地域ケアプラザ 葛西（かさい）まで問い合わせください。

TEL 801-2114 FAX 801-2923

【卒業式・入学式】

	中田中学校	汲沢中学校	中田小学校	東中田小学校	葛野小学校	伊勢山小学校
卒業式	3/9(金)	3/9(金)	3/16(金)	3/16(金)	3/16(金)	3/16(金)
入学式	4/5(木)	4/5(木)	4/5(木)	4/5(木)	4/5(木)	4/5(木)

■自治会館拝見

ここがすごい！中西町内会館

うちの会館の芳名板を、ぜひ『かわら版』に紹介してくれませんか。毛筆の文字が素晴らしいんですー。中西町内会の斉木 隆さんからオファーがあったのは昨年夏ごろ。今年1月によりやく実現、鶴見忠雄さんに案内してもらうことになった。館内の右天井下の壁に上下2段に並んだ約220枚の芳名板（写真）。当初は白木の真新しいものだったのだろうが、今はだいぶ色あせていたが、そこに書かれた文字の美しさは健在だった。最初の1枚には昭和53年2月落成と書かれてある。氏名の上に寄付金額が書かれてあり小山一夫、小山行雄、小山佐七さんらの名前が並ぶ。



芳名板を説明する鶴見さん

ところでこの文字の書者は当時、会計をやっていた今は亡き斉木昭三さんで、現会長の斉木隆さんの実兄にあたる人。神奈川中央交通、平塚・本社の総務部長を務めていた。会館建設にあたり2代目会長・小山行雄氏とともに資金集めに奔走、苦勞した人だ。鶴見さんは感慨深く語ってくれた。「昭和52年ごろの世帯数は230戸ほど。上は10万円から下の2千円まで、ほぼ全員が寄付に協力してくれました。名をつられているうちの約半数以上が亡くなっています。地域でいろいろ貢献、活躍した人がたくさんいます。これは中西の貴重な歴史でもあるのです。その子どもや、新しい人たちが、この先人たちの名前を見てどう思うかです」。

会館建設で苦勞したのは、やはり土地の問題と少ない資金でのやりくり。「会館入り口に看板が二つ掛っているの気がつきませんか。「中西町内会館」と「中西青少年会館」。当時は青少年会館を併記することで市からの補助金が加算されたのです。資金不足で悩んだ証なんです。中西町内会館は市の補助金で建てられた第1号でもあるのです」。



中西町内会館

中西は中田連合自治会とも縁が深い。自治会の設立が昭和42年で中田連合と同じ年に誕生しており、連合役員や地域の団体役員、リーダーで多くの人材を輩出しているのも中西である。河野民雄（環境）、斉藤貞雄（中田社協）、持田賢一（体指）、鶴見忠雄（元青指会長）、望月 榮（交通安全、中田連合会長8期16年）、三溝 弘（環境、学校）の諸氏などの名が浮かぶ。そして、忘れてならないのが「中西子供会」の鼓笛隊だろう。健

民祭や各種イベントでそのかわいい姿は中田の名物だった。昭和50年からおよそ15年続いた後、それら楽器類が中田小学校に寄贈され、今を時めくマーチングバンドの前身と言っても過言ではないだろう。伝統と奉仕精神豊かな、人情味溢れる町会である。

（宮田貞夫）

「中田白百合地域情報サイト」にて地域の最新の情報や、かわら版バックナンバーなどを調べることができます。www.odoriba-cp.jpへアクセス！！